



米子市埋蔵文化財センターたより

第31号

2018年12月



城の空堀と切岸を確認

米子市石井要害跡第2次調査

8月末から行ってきました中世城館の石井要害跡第2次調査は、10月末に終了しました。今回の調査では、15C～16Cの腰郭や空堀、柵列などを検出しました。

空堀は頂部の平坦面に位置し、北東－南西方向に伸びています。断面の形が逆台形をした箱堀で、規模は長さ12.7m、幅2.5～3.1m、深さ1.8mを測ります。

空堀の肩は直線的ではなく、楕円状の掘り込みが連続するような形態となっていることから、作業集団毎に分かれて堀を掘削したと考えられます。また、空堀の中には地山の土が北西から南東へ傾斜するように投げ込まれ埋められていたことから、空堀の北西側（空堀の外側）には土塁があったと想定され、その土塁を崩して空堀を埋め立てたと考えられます。通常、土塁は、土塁の内側の空間を防御するために空堀の内側に築かれるものですが、本遺跡では空堀の外側に土塁を築



第2次調査地の堀と切岸と腰郭

いていたと想定され、どのような意図があったのか謎が深まるばかりです。なお、空堀は人為的に一挙に埋め立てられており、第1次調査地と同様に郭の拡張が行われています。

北東側の切岸（斜面）では、腰郭を2か所（腰郭3、4）検出しました。腰郭4は住宅造成工事により大部分が削られていましたが、柱穴が一直線上に並んでおり、建物跡の存在が窺えます。

また、腰郭3は版築状に埋め立てられており、頂部の平坦面の郭の拡張に連動したものと思われます。

これまで2次にわたる調査の結果、石井要害跡の様相が徐々に明らかとなってきましたが、来年度も引き続き調査を行う予定ですので、その成果に期待したいと思います。（高橋）

発掘調査情報

一新屋宮の段遺跡の鍛冶炉跡―

日南町新屋

平成 29 年度から調査を行っていました新屋宮ノ段遺跡では、鍛冶炉跡を検出しました。

鍛冶炉は、2 間×3 間の掘立柱建物の中央に位置しており、鍛冶炉の東側には金床石が置かれ、西側には鉄分が集積した浅い土坑が接しています。

鍛冶炉の構造は、二つの土坑が連結しており、土坑の間には石と粘土で炉壁を作り、その下はトンネル状の空洞で二つの土坑が繋がっています。北側の土坑で加熱された鉄が、トンネルを通して不純物(鉄滓)だけが南側の土坑に流れ出す構造でした。こうした構造は、製鉄炉で生成された鉄(銑鉄など)を再加熱させて成分調整を行い、鋼(はがね)などに加工する製錬鍛冶炉に特有のものです。

この遺構については、来年度に詳細な追加調査を行い、精錬鍛冶炉で行われた作業工程を解明する予定です。(佐伯)



検出した鍛冶炉跡

整理室たより

石井要害跡出土品の整理

整理室では、石井要害跡の報告書作成のため出土した遺物の整理を進めています。

出土遺物の大半は陶磁器類で、青磁、青花、白磁、朝鮮陶器などの貿易陶磁もありますが、備前焼の破片の数が目立っています。そのため、備前焼に詳しい岡山市教育委員会の乗岡実氏に来ていただき、時期などについて指導していただきました。焼締系の陶器の大半は備前焼ですが、胎土や焼成から越前、常滑など産地の異なる物もあり、時期的には 15 世紀の半ばから 16 世紀の半ばのものが主体とのことでした。

―出土備前焼の検討―



備前焼遺物の指導風景

米子市淀江町福岡の日本海を望む大山山麓にある古代寺院跡です。平成3年（1991年）の発掘調査によって、彩色仏教壁画の破片が発見され注目されました。また仏像の塑像破片も多量に発見されています。

寺の伽藍配置は、西に金堂、東に塔（中塔）という配置を基本としていますが、塔（中塔）の南北に二塔を配し、三塔が南北に並ぶ特異な配置です。金堂、塔の基壇は瓦積みで、外側に石列を巡らす二重基壇となっています。中心伽藍北側の一段高い丘陵には寺院の附属施設と考えられる掘立柱建物跡が確認されています。

上淀廃寺の創建年代は出土した瓦の文字年号から天武天皇12年（683年）と考えられ、10世紀頃には焼失したと推定されています。（小原）



上 塔の基壇遺構 下 菩薩壁画片

コラム

江戸時代を掘る⑤

－米子城跡第38次調査－

この場所は2002年にマンション建設に伴い米子城跡第38次調査として緊急発掘されました。

ここは宝永六年（1709）の絵図では、陸田となっており、武家屋敷の存在は絵図では明らかではない場所でした。

発掘調査では、掘立柱建物跡2棟と屋敷地境界溝、柵列などの遺構が検出されました。出土品は少量ですが陶磁器や瓦、煙管、土錘などが検出されており、时期的に18世紀から19世紀の範疇に収まるものと考えられました。この時期の絵図は存在しないものの、建物や柵列の方位が武家屋敷の街区の方位と一致していることから、武家屋敷街の何らかの建物が存在したことが伺われます。（小原）



2区調査区の状況

センター・資料館日誌

10月7日(日) 山陰歴史館共催展「米子城の歴史とその調査研究史」にコーナー展示を行った。

10月11日(木) 福市考古資料館企画展「古墳時代の米子」を開会した。

10月13日(土) 第2回考古学講演会「鳥取県の埴輪」を鳥取県埋蔵文化財センターの下江氏を迎えて、米子市文化ホールで開催した。



10月17日(水) 元大阪市文化財協会の京嶋氏が資料調査で来館された。

10月28日(日) 「日南町宮の段遺跡」発掘遺跡見学会を開催した。



11月1日(木) 境港市生涯学習課の竹内氏他が佐々木コレクションの調査で来館された。

11月6日(火) 岡山市教育委員会文化財課長・乗岡氏が備前焼遺物の指導で来館された。

11月10日(土) 財団フェスタで弓矢コーナー

「侍をやっつけろ！」を開催。



11月11日(日) 「米子城を活かしたまちづくりシンポジウム」が開催された。

11月17日(土) 第3回考古学講演会「米子の古墳を探る」を開催した。

11月23日(金) 研修室で山陰中世考古学研究会が開催された。

岸本バイパス開通式イベントで調査遺跡パネルを展示した。

12月5日(水) 鳥取県埋文センターで石井要害出土金属器のX線撮影を行った。

12月11日(火) 広大院生・牧氏が尾高浅山遺跡出土土器の実測で、荒神谷博の平野氏が縄文土器調査で来館された。

編集後記

師走になり大山も白く化粧し始め、朝晩の寒さが身に染むようになりました。

調査員は、発掘現場が終了し報告書作成に忙しい日々を送っています。

発行日 平成30年12月20日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp